

# 国境を越える文化遺産 登録へ向けた国際協調

国境を越える文化遺産には、「面」のものと、「点」として複数国に点在しているもの、「線」として国境をまたいでいるものなどさまざまである。また、サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路のように、価値も歴史も同一の性格を持ちながら、個々の遺産として登録されているものもある。ここでは、それらのなかで特徴的な遺産と、国際協調の上で、効果的な取り組みが行なわれている遺産、そして課題を抱える遺産を紹介する。

東京大学大学院教授 西村幸夫  
東京大学大学院工学系研究科 西川亮

## 「面」の象徴。一歩一歩協調体制を整える「クルシュー砂州」

地続きの「面」でつながる文化遺産として初めて、リトアニアとロシアの2カ国同時申請により登録されたのが、「クルシュー砂州」だ。バルト海とクルシューラグーンを隔てる全長98kmの長い砂州で、その中央を国境が貫いている。

有史以前から厳しい自然環境を戦いぬいてきたこの地域は、国こそ違うものの、置かれた環境も乗り越えるべき課題も同じである。国境を越える遺産として、ともに課題に取り組むことの重要性を、初期の段階から認識していたのである。クルシュー砂州は有史以前からの生活が存続する稀有な地域である。この地域は、人々の生活が、激しい風や波などによる自然の破壊力や、森林伐採などによる人的開発によって脅かされてきた。それらの課題を抱えながら、人々が築き

上げてきた文化的景観が、独特の文化を特徴づける伝統的居住形態を示し、人類と環境とのふれあいを代表する顕著な見本であるとして（登録基準Ⅴ）、2000年に世界遺産に登録された。それまで国境を越える文化遺産は、まずどちらかの国が世界遺産として登録され、後に範囲の拡大により、別の国が登録されるケースのみだった。しかし、クルシュー砂州は、登録時から2カ国同時に国境を越える遺産として登録された。しかし、登録申請の際、リトアニアとロシアは、両国が共同で世界遺産に登録されることが、「破壊されやすい景観の効果的な保全方法である」としながらも、登録にあたって共同で歩調を合わせることができなかった。

そこでICOMOS（国際記念物遺跡会議）は、特に観光管理計画の策定を主軸に、両国共同の管理計画を提出することを価値とする、ローマ帝国の国境線の登録について、ICOMOSは、将来的には、ヨーロッパだけでなく、アフリカやアジアの国々まで広げる支援を行おうとしている。2カ国から始まった試みが、多くの国々に拡大していくことは、国境を越える遺産の本来のあり方といえるだろう。



リトアニアとロシアの飛び地にまたがるクルシュー砂州は、長さ98km、幅400m～4kmにわたる砂丘の半島。先史時代より砂州の優食と人々は戦ってきた。

とを求めた。世界遺産委員会も、数回にわたって、リスクアセスメントや不慮の緊急事態に備えた、相互計画の策定を求めた。その結果、登録から5年後の2005年、両国それぞれから、緊急事態に備えた協力計画の草案や環境影響アセスメント後のアクションプランの提案がなされた。徐々に協力的体制が整い始めた兆しである。それでも、バルト海、特にクルシュー砂州の文化的景観の管理や、構成資産全体の管理計画、観光戦略にかかわる計画に関してはまだまだ不十分な点が多く、共同委員会によるさらなる成果が期待されている。

## 点でつながり、拡大していく

### 「ローマ帝国の国境線」

イギリスとドイツの「ローマ帝国の国境線」は、そもそもイギリスの世界遺産であったものが、範囲の拡大により、ドイツの資産を含み、さらに、イギリスの別の資産を加えて、拡大している。範囲拡大によって「点」の遺産が国境を超えていく顕著な例である。

また、両国が共同で推薦文を提出したことで、登録が実現した例でもあり、今後も複数の国々を巻き込み、発展していく兆しを見せている。

西暦2世紀に最盛期を迎えたローマ帝国は、北ヨーロッパから中東、アフリカ

まで絶大な勢力を広げていた。ローマ帝国の国境線は、その勢力範囲を示す遺産群であり、まず、イギリスの「ハドリアヌスの長城」が単独で世界遺産に登録された。1987年のことである。その後、ヨーロッパ内で、遺産の拡大登録への関心が高まるなか、イギリス政府とドイツの州が協力し、2005年にはドイツのリーメスの登録を実現させた。リーメスとは、ドイツ北西のライン川から南東のドナウ川まで550kmに渡る城壁や要塞などを指す。このときリーメスは、ハドリアヌスの長城の拡大登録として位置づけられ、登録名は「ローマ帝国の国境線」に変更された。2008年には再度、範囲が拡大され、イギリスのアントニヌスの長城も加わった。

これらの背景には、2003年にイギリスやドイツをはじめとする欧州5カ国によって創立された「ブラチスラヴァグループ」の存在が大きい。このグループは、ローマ帝国の境界線のすべての資産を世界遺産として登録するための体制作りを目的としている。ローマ帝国の境界を持つ国々に対し、その歴史的重要性を示すとともに、遺産管理のためのガイドラインの作成、研究調査やデータベースの作成などを働きかけている。また、今後その他の国々やICOMOS、世界遺産セン



A イギリスのハドリアヌスの長城。全長は約120kmに及ぶ。  
B ローマ帝国の国境線の一部として登録されたリーメスの遺跡。  
C 2008年に追加登録されたイギリス内のアントニヌスの長城。



